

インマヌエル中目黒キリスト教会

2014年10月12日聖日礼拝

「神さまの公平、愛の配慮」

ローマ人への手紙 2章1-16節

河村従彦牧師



聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙 2章1-16節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp266~/第三版の聖書はp291~

- 1 ですから、すべて他人をさばく人よ。
あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行っているからです。
- 2 私たちは、そのようなことを行っている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。

- 3 そのようなことをしている人々をさばきながら、自分で同じことをしている人よ。あなたは、自分は神のさばきを免れるのだとでも思っているのですか。
- 4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。
- 5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げている

のです。

- 6 神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。
- 7 忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、
- 8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。
- 9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行うすべての者の上に下り、

- 10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、善を行うすべての者の上にあります。
- 11 神にはえこひいきなどはないからです。
- 12 律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はすべて、律法によってさばかれます。
- 13 それは、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行う者が正しいと認められるからです。

- 14 ——律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行いをする場合は、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。
- 15 彼らはこのようにして、律法の命じる行いが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。 ——

16 私の福音によれば、神のさばきは、
神がキリスト・イエスによって人々の
隠れたことをさばかれる日に、行われ
るのです。

説教

「神さまの公平、愛の配慮」

ローマ人への手紙 2章1-16節

河村従彦牧師



A 文脈

- 1 ローマの教会の発生
- 2 ユダヤ人と異邦人の比率

B ローマ人への手紙の読み方

- 1 著者は何を言いたいのか
- 2 文化の違いをどう考えるか

C 構成 ~ユダヤ人・ギリシヤ人は 神さまの前に同じ

序	1:1~15
I ユダヤ人・ギリシヤ人の共通点	1:16~3:30
II ユダヤ人・ギリシヤ人共通の信仰	3:31~8:39
III ユダヤ人・ギリシヤ人への警戒と勧め	9:1~12:2
IV ユダヤ人・ギリシヤ人共通の実際的勧め	12:3~15:6
結論~たがいに受け入れ合いなさい	15:7~17
挨拶	15:18~16:27

Ⅰ 神さまの聖さ

A ユダヤ人もギリシヤ人も聖なる神さまの前には変わらない

1 信じるという点で 1:16~17

2 罪という点で 1:18~2:11

3 律法という点で 2:12~3:8

4 すべての人が罪に定めされているという点で 3:9~20

5 救いは信仰によるという点
3:21~30

B 神さまの基準

- 1 絶対的な基準
- 2 隠れたことが問題

Q これだけ環境が異なっている両者に
この聖なる基準を適応することが本当に
愛、公平なのか

C パウロの重荷

1 安心してしまおう

2 差別的な目で見てしまおう

II 神さまの公平

A それぞれの基準

B ものさしは人それぞれ

1 それぞれの文化・摂理的環境

2 絶対的基準と相対的基準のギャップ

→恵み

C 公平という愛の配慮

D 公平な扱いをされた人

Ⅲ 神さまの愛の配慮

考え方

- 1 見た目ではわからない
- 2 神さまの基準は一人ひとり違う
- 3 神さまは愛しかない

- A 信仰のあり方
- B 信仰生活の表現
- C 福音に触れる機会